

荻窪病院だより

年々増えている前立腺がん。 50歳をすぎたら、年に1度は PSA検査を受けましょう



2020年には男性がんの罹患数予測第1位になっているというデータもある前立腺がん。その背景には食生活の変化や高齢化があり、いま日本でもっとも増えているがんだと言えるでしょう。

進行は比較的ゆっくりで早期発見・治療ができれば根治も可能という前立腺がんについて、泌尿器科医長の野中医師に話を聞きました。

前立腺がんが疑われるのはどんな時ですか？

前立腺は男性の膀胱から尿道に続く場所に尿道を取り巻くようにあり、精子の運動や保護に関わる前立腺液を分泌しています。この前立腺から悪性の腫瘍が生じるのが前立腺がんです。同じ前立

腺の病気では前立腺肥大症があります。これは前立腺内に良性の腫瘍が発生し、尿道や膀胱を圧迫していくもので、転移はせず、前立腺がんとはちがう病気ですが、現れる症状は似ており、残尿感・排尿困難・尿や精液に血が混じる等があります。

また、健康診断などで、無症状であるのに前立腺がんの可能性を示す値であるPSA値が高いということ、受診される患者さんも多くいらつしやいます。

PSA値が高い＝前立腺がん、なのでしょくか？

PSA検査は採血のみででき、前立腺がんのスクリーニングとしては大変有効ですが前立腺肥大症や前立腺炎でも高くなる場合があります。これだけでは診断は確定できません。

当院ではまず触診・エコー・MRI検査を行い、がんが疑われる場合は前立腺の組織を採取する前立腺生検を行います。ここでがん細胞が見つかった場合は、CT・骨シンチグラフィなどの画像検査でがんの進行度を確認します。

前立腺生検は麻酔が必要なため、当院では2泊3日の入院で行っています。

前立腺生検を行う松島医師。直腸から前立腺に向かって針を通し組織を採取します



前立腺がんにはどんな治療法がありますか？

前立腺がんは他のがんに比べ予後がよく、がんの発生が早期で局所であれば根治も可能です。治療法としては

- ①前立腺全摘除手術
- ②放射線療法
- ③内分泌ホルモン療法
- ④抗がん剤などがあり、患者さんの年齢や全身状態、生活状況、がんの進行度により選択していきます。①の手術をとっても開腹か腹腔鏡かあるいはロボット支援手術か、②の放射線療法でも外照射法か組織内照射法かで適応や合併症に違いがありますので、患者さんとよく相談して行ないます。

どのがんにも言えることですが、早期発見が肝心です。50歳を過ぎたら年に1度のPSA検査を習慣とし、また先に上げた症状がある方は、かかりつけ医への早めの相談をおすすめします。

泌尿器科スタッフ。大橋部長をはじめ、温かな雰囲気の中で診療を行っています



荻窪病院は
地域医療に
貢献します

理念

患者さんへ安心で信頼される医療を提供します。
職員へやり甲斐のある仕事と豊かな生活の場を提供します。

基本方針

- 1.急性期医療に全力で取り組み、地域社会に貢献します。
- 2.個人の権利を尊重し、相互信頼に基づいた患者さん中心の医療を提供します。
- 3.豊かな人間性と優れた技能を有する医療人の育成に努め、活力のある病院づくりをします。
- 4.経営の健全化に努め、質の高い医療を地域に提供し続けます。

医療・介護から広がっていく、暮らしやすい街づくり
**「みんなで考えみんなで支える
 地域づくりの会」を開催いたしました**

昨年11月に当院レストランを会場に「第5回みんなで考えみんなで支える地域づくりの会」を開催いたしました。

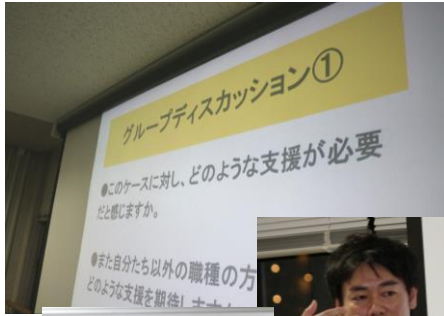
この会は、急性期病院と地域の医療・介護職の方たちとで課題や問題を話し合い、よりよい連携を構築することで住みやすい地域づくりにつなげることを目標とし、河北総合病院・倭成病院・荻窪病院が世話人となって行っています。

今回のテーマは「入退院を繰り返す患者さんについて」。

入院をきっかけに患者さんによって体力や生活力、認知機能が

が低下してしまいます。患者さんにとって負担になるような入退院を繰り返さないために、病院と在宅側にどういった連携が求められるのか、それぞれの職種にできることは何なのか。まずは同職種で、次に多職種でグループディスカッションを行い、そこで多くの意見が挙がりました。

住み慣れた地域で暮らし続けるために、急性期病院は地域の方たちとどのような連携が必要なのか。今後みなさんと一緒に考えてまいります。



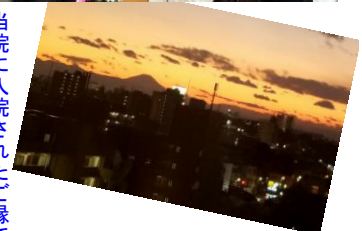
右：司会進行をする湊医療ソーシャルワーカー
 左：閉会の挨拶をする吉富副看護部長

ステイブ・サククスさんの
**ニューイヤークンサートを
 行ないました**

1月6日(土)に当院の7階レストランでニューイヤークンサートを開催しました。ニューヨークのジャズシーンで活躍されたステイブ・サククスさんによる10回目のコンサートです。これまでは12月に行われ、年明けでの開催は初めてだったため選曲が難しかったとステイブさん。日本らしい曲



当院に入院されたご縁で、
 年2回、演奏してくださる
 ステイブさん。ピアノは
 相馬ゆかりさん。



第34回みんなの健康講座
**「もつと知ってほしい
 がんのはなし」**

2月17日に当院7Fレストランで、第34回「みんなの健康講座」を行います。今回は消化器

- 日 2月17日(土)
- 時間 15時～16時
- (開場 14時45分開場)
- 会場 当院7階レストラン
- お申込み 地域連携室

03-3369-0267

も織り交ぜながら、皆さんの耳を楽しませてくださいました。レストランから見える富士山に美しい夕日がかかり即興で「夕焼け小焼け」を奏でてくださいました。あつという間の1時間でした。

がん・乳がんを中心に、外科の矢部信成医長が、がんの原因や急速に進歩しているがん治療について、わかりやすくお話しいたします。日本人の2人に1人ががんで亡くなる時代、がんについての知識を深めませんか。皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。



12/16に開催された「みんなの健康講座 健康長寿とロコモ」には約60名の皆様にご参加いただきました